

タイトル

UFO ライダース

企画者

大岡俊彦

登場人物表

- 林繁 (14) いじめられっ子。ラジコンカーが唯一の趣味。
- 水本涼 (14) 繁のクラスで浮いてる、成績優秀の天才児。
- 轟 (14) 繁をいじめている不良。
- 小野寺 (60) 繁の逃避場所、「オノデラプラモ堂」の主人。
- ヒデ (30) 社会人をしながら、プライベートで UFO レースに参加。
チーム「アヒル」のリーダー。
- 鬼塚美月 (33) 非合法の「UFO レース」主催者。
- 権藤警部 (50) UFO レースを現行犯逮捕しようとしている。
- チャリオッツ UFO レースの常勝チーム。スポンサーがついてて、最新機器を常に使用。銀一色のドローンで 3D スコープ装備、人工知能で機体を安定させ、太い回線の iPhone で操作。

あらすじ

ACT 1

土曜深夜の渋谷、ラブホテル街。ガスマスクやお面で顔を隠した、怪しげな人々が集ってくる。警備員に袖の下を渡し全員屋上へ。

それぞれのケースから出てきたのは、小型のレース専用ドローン。骨組みに基盤むき出しで、大型モーターのカスタム機たちだ。ネット配信機材が立ち上がり、エロティックダンサーがトランス音楽で踊り狂えば、レーススタート！ 今夜の非合法配信ドローンレース「UFO レース」は、渋谷ラブホテル街、屋上周回コース。赤や青の LED でデコレーションされた UFO たちが、時速 150 キロを叩き出す。ネオン看板をかい潜り、非常階段でセックスするカップルを驚かせる。ドローンカメラの中継映像を見ながらの FPV (主観映像：ドローン目線) エアレースは、アンダーグラウンドで密かに大流行だ。

中学生の林繁(14)は今夜がデビュー戦。「思えばこれは、あの日ぼくが UFO を見た時からはじまっていたんだ」

時間戻って、繁の日常。

窓から空ばかり見ている繁。今日もいじめっ子の轟(14)が来た。周りの友達は何も助けない。屋上で殴られる繁。その間、空ばかり見ている。

日曜日の川原。繁の趣味は唯一ラジコンカーを走らせること。「地べたから離れたい」と、土でジャンプ台をつくる。そこへ偶然轟たちが通りかかり、ジャンプ台も、車も壊されてしまう。殴り倒され、地面に大の字になる繁。

と、上空に赤い UFO。UFO？ 違う、4 本ローターのあれは……ドローンだ。

繁が唯一心を許す「友人」は、オノデラプラモ堂の主人、小野寺じいさん(60)だけだ。壊された車の修理を頼みに来たが、もう一台買ったほうが早いと言われ落ち込む。「あいつらにやられたんだろ。友達は何も言わんのか？」「……友達のピンチに何もしない奴なんて、友達じゃないよ」

そこへ小野寺の馴染みの客、ヒデ(30)がドローンのオーバーホールをしにきた。二人で奥へ引っ込んだ隙に、小野寺の開きっぱなしのパソコン履歴を見てしまう繁。それは「UFO レース」の衝撃的映像。林を高速で飛ぶ UFO の目線、廃墟を自在に飛ぶ UFO の目線。なんだこれ……こんなに自由に飛べるなんて……！ 「俺、空を飛びたい」と繁は車をやめて、小さなドローンを買う。

自室で、川原で、繁は特訓。と、上空にあの赤い UFO を再び目撃。自機であとを追

う。二機は山の中へ。しかし繁機はバッテリーが切れてしまい、山の中の公園に墜落。UFOの主が気づいてくれ、カメラを公園の標識に向けてくれる。その主には見覚えがあった。同じクラスの水本(14)だ。

次の日。繁は勇気を出して、今まで話した事のない水本に話しかける。「俺は誰とも話さない。勉強が忙しい」と、水本は大学数学をやっている。「赤い UFO…」と繁が言うと、水本は顔色を変え屋上に誘う。「昨日の事は黙ってて。俺とお前は関係ない」

プラモ堂で修理が終わり、ヒデさんが受け取りに来た。丁度チームの一人が欠場で、二人で出なきゃならないとぼやく。「この子ドローンはじめたばかりだけど？」と小野寺が繁を推薦してくれる。丁度いい、完走1ポイントでも欲しい、これからミーティングだから来てくれと。ついていくと、残りのメンバーとはなんと水本だった。驚く二人。「なんだ友達だったのか」「別に。友達じゃありません」と水本。

「軍艦島で最終決戦が行われる」という噂の UFO レース。その賞品は、最新モーターの最高級ドローン。「…一番遠くに飛べる翼が欲しい」 繁は、レース参加を決めた。

ACT 2

そして冒頭のレースシーンへ。ルールは1チーム3機のリレー制。機体もコスチュームも銀色の最強チーム「チャリオッツ」、柄の悪い「藤沢エンペラー」、広告塔の「青山モデルガールズ」など、個性溢れるチームたちに混じって繁が飛ぶ。

非合法レースらしく、空中に粉を撒いてローターを狙ったり、妨害電波を出したりやりたい放題。繁はラジコンの素養があったせいかコース取りが上手い。「ずっと地べたを走ってたから」

結果、3台抜きを達成。注目ルーキーとして、美人主催者の鬼塚美月(33)に名刺を貰う。

UFO レースは隔週土曜開催。神社周回(千本鳥居くぐり)、銭湯貸切(男湯から壁を上がって女湯へ→のれんをくぐって外に出て煙突ごえ)、ガラス張り植物園、廃墟周回など、次々と順位をあげていく繁+水本+ヒデさんのチーム。その中で、繁と水本は少しずつ話すようになる。

ネットで知られても、リアルでは繁は単なるいじめられっ子だ。ある日また屋上に連れて行かれた。が、一台のドローンが来てカメラを向けた。怒った轟は石を投げて落とし、ぼこぼこに壊してしまう。轟が去ったあと拾いに来たのは、案の定水本だった。「余計なことすんなよ」と繁は切れる。「助けてやろうと思ったんだ」と水本。「ラジコンが壊れるのを見るのは、身が切られるように痛い」「別に。ドローンは機械だ。痛くない」二人はぎくしゃくする。

だが先生たちが轟を呼び出した。撮影データは転送済みで、水本が匿名で送りつけたのだ。しかし水本が部品回収したのが目撃されていて、水本が轟に呼び出される。

今度は繁がドローンを飛ばして写真を抑えた。轟は石を投げるが、軽い繁機の急上昇についていけない。轟は渋々水本を殴るのを諦めた。

一方、UFO レース主催者、美月は警察に呼び出される。が美月は「あの映像は CG」としらを切る。現行犯逮捕を決意する担当の榎藤警部(50)。

次の UFO レースは、なんと深夜の山手線一周だ。レースは荒れに荒れ、繁機はクラッシュ。機体は真二つでパーツも四散してしまった。そこへ、待ち伏せした榎藤警部ら警察がライダーたちを次々に現行犯逮捕。みな蜘蛛の子を散らすように逃げる。

次の朝、「現場に戻るな」との通達を無視して、繁はパーツの残りを探しにくる。水本が監視しに来た。「なんでお前そこまでパーツに拘るんだ。所詮道具だろ」「お前には機械かも知れないけど、俺には自分の一部なんだ。俺はドローンで飛んでるときしか、俺じゃないんだ」 繁は最後のパーツをついに見つけた。

水本がレースに参加するのは、ドローンの実戦データを取る為だ。彼が必死に勉強し、一人でドローンを研究するのには理由があった。母を亡くしていたのだ。持病の発作で救急車に乗せたが、渋滞に巻き込まれて手術に間に合わなかったのである。「ドローンで運べば、間に合ったかも知れない」これが水本の動機だ。「だからドローンは機械だ、肉体じゃない」「じゃあお前の母さんも、モーター取り替えれば治ったろ」 繁はつい言い過ぎてしまい、二人は殴り合いの喧嘩に。

UFO レースは中止。あの熱狂は空中分解だ。

川原で一人佇む繁。壊されたままのジャンプ台。夕日に、また赤い UFO。水本だ。あいつは全然諦めていない。あいつだって優勝賞品の最新ドローンを分解して研究したいと言っていた。「……友達のピンチに何もしない奴なんて、友達じゃない」

繁は名刺を貰った美月に連絡を取った。「友達がまだレースを諦めてない。なんとか再開出来ませんか」と直訴。「じゃあその友達と直接オフィスへ」

繁と水本は指定された場所に行く。そこは有名メーカー「〇〇〇」だった。「驚いた？私の裏の顔は UFO レース主催者、表の顔はドローンメーカーってわけ」と美月は正体をさらした。「まだ日本では法律が整っていないから、ドローンレースは非合法になるだけなの。でも技術を進化させるのは、競争しかない」と。「じゃあ、益々こいつの為にレースを復活させてください！」と繁。だが水本は逆に繁をかばう。「こいつはドローンを飛ばしてないと自分じゃないんです。こいつに居場所を」二人同時に「こいつにドローンをやらせてやって！」と。「なんだ二人仲いいのね」「友達じゃないんです！喧嘩してるんです！」とまた二人同時。

権藤警部から裏取引があった。ある難事件を解決してくれたら逮捕者も見逃し、UFOレースも見逃すと。美月は承諾、決勝レース開催を宣言。ただしネット中継なしのシークレットで。

そのファイナルステージとは、あるヤクザの組長の要塞屋敷。そこに少女が監禁された情報があるのだが、物証がないので踏み込めないという。ドローンで潜入し、証拠写真を送れないか、というのが依頼だった。「撮影なら、ドローンの十八番だ」

ACT 3

権藤警部がドアを別件で開けさせる。その隙に UFO 達が一気に侵入、屋敷中に散らばる。なんだこいつらは！とヤクザ達がドローンに襲いかかる。番犬のドーベルマン vs ドローン、ヤクザの日本刀 vs ドローン、ヤクザの拳銃 vs ドローンなどの、見たこともないドローンアクション！

屋敷内は上へ下への大騒ぎ。改造屋敷のため、元の図面と現状が違う。カメラの中継を見ながらアドリブで探すしかない。機体のない繁は、図面を見ながら水本機のナビに徹する。はじめてのコンビプレイだ。皆は地下室が怪しいと地下室へ向かう。しかし、繁だけが「そこは違う」と主張。いじめられっ子の勘だ。人は何かを隠すとき、本命に見えなさそうな所に隠すものだ。繁は不自然な階段下のスペースに気づく。

そこへヤクザの日本刀が振り下ろされ、水本機は真っ二つ！ だがその中から、真二つサイズに改修された繁機が発進！ 「合体ドローンかよ！」

繁が覗んだ場所の鉄格子の奥に、その少女はいた！ 写真転送、権藤警部は全警官に指示。「踏み込むぞ！」 直後、繁機はヤクザの拳銃で撃ち抜かれてしまい、墜落…。

少女は助け出され、レースの優勝は繁達に決まった。

水本は、繁に言う。「お前の肉体の一部が痛む感覚、今分かった。つらい」

繁は返す。「命は、直せない。一人の命が助かってよかった。機械は交換すればいいんだ」

互いに笑って、二人ははじめてハイタッチをする。

「ぼくの欲しかったものは、空中にではなく、地上にあった」

エンドロールは、少し未来に「合法」となった軍艦島レース！